

令和7年度実施（令和6年度分）監査総括意見の要旨

1. 健全化に関する報告

令和7年度に実施した奥多摩町における令和6年度分の一般会計、都民の森管理運営事業特別会計、山のふるさと村管理運営事業特別会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、同じく、令和7年度に実施した令和6年度分の下水道事業会計、奥多摩町国民健康保険病院事業会計、決算である。審査結果だが、令和7年度に実施した令和6年度分の奥多摩町における全8会計の決算書類は、関係法令に準じて作成されており、関係帳簿及び会計伝票並びに証票類とも照合の結果、決算の計数に誤りはなく、預金残高とも符合し、基金の運用状況及び予算の執行も、適正かつ正確であり、歳入、歳出とも妥当であったことを認める。財政の健全化に関する法律に係る審査についても、健全化判断比率、資金不足比率ともに良好であった。

2. 代表監査の総括意見

奥多摩町において令和6年度は「第5期奥多摩町長期総合計画」の最終年度として、それら施策を実現すべく事務事業を適正に行い、かつ「第6期奥多摩町長期総合計画」の策定にあたり検証及び総括の年度として非常に重要な位置づけとなる年度であった。

令和6年度決算における一般会計の歳入は72億1,955万6千円であり、歳出は69億9,362万4千円で差引残高は2億2,593万2千円であった。一般会計の歳入内訳に着目すると自主財源の大部分を占める町税は6億5,012万6千円で歳入総額に占める割合は9.0%であった。町税は前年度と比較しても1,247万5千円の減額となり依然として地方交付税や都支出金に大きく依存せざるを得ない状態となっている。

歳出は上記の通り69億9,362万4千円であり執行率は96.5%と計画通りに令和6年度の予算が執行されたという事ができるであろう。

奥多摩町の活力の源となる人口においては令和6年度末現在4,462人であり前年度と比較すると114人の減少が見られた。年少人口においても令和6年度末現在304人であり前年度と比較すると15人の減少が見られている。従来からの課題ではあるが、依然として人口減少と少子高齢化の傾向が続いている。奥多摩町の発展に資るべき町民の減少により労働力及び生産力の不足並びに町内需要の減少、そしてそれらが結果としてもたらす事であろう奥多摩町の活力と税収の減少という課題がさらに深刻化するものと思われる。

病院事業会計においては事業収益4億9,615万3千円で事業費用が5億2,802万6千円で当年度純損失が3,187万3千円と赤字経営となっている。入院患者数は回復傾向にあり増収となったが、物価高騰による材料費等の支出増加がそれ以上に影響してしまっている。稼働率の更なる向上及び費用の見直し等を引き続きこれら収支状況を脱却し経営の健全化を図っていくべきであると考える。

令和6年度では前年以前に引き続き自主財源の少なさや人口減少と少子高齢化、その他のマイナス面が散見されるが、「人 森林(もり) 清流 おくたま魅力発信！」～住みたい 住み続けたい みんなが支える癒しのまち 奥多摩～をキャッチフレーズとして各分野で施策が展開され町職員の発想そしてそれを実現しようとする努力によりプラスの面がより多くあると思われる。

令和6年度ではアフターコロナとなった令和5年度に引き続き奥多摩町納涼花火大会や奥多摩セラピーウォーク、オータムウォークが開催され、なかでも第47回奥多摩町納涼花火大会では約10,000人の来訪者があったと記録されている。

その他VERTERE(バテレ)合同会社の新工場で行われた奥多摩ビールフェス、その他のイベントも同様に盛大に開催された。また多摩大学との連携事業として多機能型地域活性化拠点AUBA(アウバ)でのカフェ事業がスタートし、更には令和5年度から始まった沿線まるごと株式会社の事業拠点Satologue(さとローグ)のレストラン棟及びサウナ棟に加え宿泊棟が新たに開業された。

これらイベントや事業を上手に活かして奥多摩町の魅力を存分に発信し、奥多摩町の今後の活性化に繋げていただきたいと思う。

奥多摩町の魅力発信から更なる観光客の増加が見込まれる事となり、それらが結果としてもたらす観光ゴミの問題についても懸念事項として挙げられる。ただし、それらに対してはドローンによる啓発活動や従来からの観光客専用ゴミ袋の有料販売等で抜かりなく準備は整っているものと思われる。

少子化・定住化対策事業では令和7年3月31日現在における奥多摩町の人口4,462人のうち定住対策関係人口は557人で総人口の12.5%にもなり、年少人口に至っては304人のうち169人、実に55.6%が定住対策関係人口であり町職員の努力がしっかりと成果を生み出しているものと思われる。引き続き定住化対策事業により更なる増加を期待する。

農林水産業では獣害対策等の難しい面もあると思うが、障害を乗り越えて獣害に強い畑作りを推進していただきたい。奥多摩町の農産物の中でブランド化されるべき治助イモの令和6年度の生産量については500kgで前年度408kgを大きく上回ったことについて農林水産係の町職員の尽力を評価し、来年度以降もそのブランド化の為に引き続き注力願いたい。

また各地で出没し世間を騒がせているツキノワグマ対策にもより一層の対策を講じる必要があると思われる。

令和6年度以降も起債償還、老朽化施設や設備の修繕、道路や橋梁等のインフラ、災害防除事業、遊休施設の解体事業、新庁舎の建設等多額の資金が必要であると見込まれる。それらの支出に対して優先順位をしっかりと付けて見直しや再構築も視野に入れた適切な財政運営を行っていただきたい。

以上、奥多摩町の課題である少子高齢化及び人口減少並びに財政等の観点から総括させていただいたが、細かな支出面においても例月出納検査を通じて事務処理方法、各支出における妥当性の評価、事故防止等の観点から引き続き監査を行っていく。

最後に理事者及び管理職の皆様、そして奥多摩町のため、更には奥多摩町に住まわれている全ての方達のためにより良い行政サービスを提供するため、現場で一生懸命働かれてる奥多摩町職員皆様のご尽力に感謝申し上げる。